

音楽科学習指導案

日 時：令和5年7月4日（火） 11:40～12:30

生 徒：石狩市立浜益中学校 第2学年 5名

場 所：石狩市立浜益中学校 音楽室

授業者：石井 紀実子

1. 題材名 創作 音のスケッチ

「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」

2. 題材観

この題材は、「さくらさくら」で用いられている四つのリズムに、平調子の構成音「ミファラシド」の五つを自由にあてはめ、4小節の平調子の音楽をつくる「旋律創作」の学習活動である。第1学年時の器楽「さくらさくら」の学習や、創作「日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう」の学習を土台とし、4小節程度の創作を通して、音楽活動の楽しさを体験させ、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うという音楽科の目標へとつなげていきたい。

3. 題材の目標

○旋律のつながり方を工夫して、まとまりのある音楽をつくろう。

○平調子の響きや旋律のまとまりを捉えてリズムを選ぼう。

（学習指導要領の取り扱い）

音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴を理解する。〔イ-（ア）〕

創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。〔ウ〕

創作表現に関わるイ-（ア）の知識やウの技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する。〔ア〕

創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

（共通事項）音色、リズム、旋律、構成

- ・選んだ音（平調子）の響き（譜例1）
- ・選んだ音やリズムによる旋律（譜例2）
- ・選択する ㊦～㊧ のリズム
- ・つくった旋律による全体の構成

譜例1

譜例2

4. 生徒の実態

昨年度の石教振に続いての公開学級である。昨年度も創作の授業を行った。

音楽への興味・関心は高いが、「声に出す、演奏する、体を動かす」などの「表現」活動において苦手意識をもっている生徒が多い。「発表の場面」になると途端に緊張してしまい、普段の力を発揮できないことが多い。音楽自体は好きな生徒が多いので、音楽科における「表現」活動の楽しさをより感じられるよう、授業形態や練習場所を工夫したり、自信を持たせられるよう、発表の場面を設けたりして、じっくりと取り組んできた。

この授業を実施するにあたり、箏という楽器が特別なものではなく、身近なものになるようにと、6月中旬より廊下に「ストリート箏」を設置し、さくらさくらの音楽を流してきた。休み時間や、放課後に気軽に「箏」を演奏する姿が見られた。本人たち曰く、「稀に、驚くほどよい作品ができることがある！」と自分たちの力を信じているのでそこを伸ばしていきたい。

5. 題材の評価規準

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に取り組む態度
平調子の構成音による特徴、リズムパターンの反復や組み合わせの特徴について理解している。 課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫している。	音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。






6. 指導計画と評価計画（時間扱い）

	指導内容	評価計画	
1	<p>【教科書の例を参考にした活動】 ○箏で表現しながら、P28活動1の条件を理解する。 ・「五つの音」を楽器で表現したり、「四つのリズムパターン」を「ツ」「ツク」「ター」などの口唱歌や手拍子などで表現したりして、音の響きやリズムや特徴を感じ取る。 ・例を楽器で表現し、創作のための条件を理解する。 ○P28活動2で指定されたリズムパターンを使って、4小節の旋律をつくる。 ・④～⑥のリズムパターンを使い、「五つの音」から自由に音を選択して旋律をつくる。（教科書に記入） ・つくった4小節の旋律を表現し聴き合い、音を選択した際に考えたことを交流する。（教科書に記入）</p>	1. 知・技 平調子の構成音による特徴、リズムパターンの反復や組み合わせの特徴について理解している。課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。（教科書への書き込み・ワークシート）	3. 主体的 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。（教科書への書き込み・ワークシート・観察）
2	<p>OP29の「さくらさくら」の楽譜で、 P21活動1の条件がどう用いられているか理解する。 ・教科書に用いられている④～⑥のリズムパターンを記入したり、「五つの音」の用いられ方を確認したりして、分かったことを教科書に記録する。 ○作品1 P29活動3において、音とリズムパターンを選択し、4小節の短い旋律をつくる。 ・作品1「五つの音」と「四つのリズムパターン」から音やリズムを選択して、4小節の旋律をつくる。（教科書 or ワークシートに記入） ○つくった旋律を箏で表現する。 ・つくった旋律を箏で表現し、全体で交流し、おもしろいと思ったことやまねをしてみたいと思ったことなど記録し、感想を交流する。（ワークシートに記入）</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 早く終了した場合 ○作品2も同じ流れで学習を進める。 ・交流しことを参考に、作品2をつくる。・箏で表現する。・感想を交流する。 </p>		
3 本時	<p>○前奏・後奏 ワークシート活動4に取り組む。 P29活動3での学習を生かし、「さくらさくら」の前奏後奏にするための作品をグループでつくる。 ・「さくらさくら」のイメージに合う前奏、後奏を考える。（ワークシートに記入） ○考えた作品をグループで練習する。 ・1人で演奏、複数で演奏など表現のしかたを工夫し、考えた前奏、後奏をつけて「さくらさくら」を練習する。 ○練習した作品をグループで発表する。 ・前奏、後奏をつけて「さくらさくら」をグループで発表する。 ○振り返り。 ・自身の作品や他グループの作品を振り返り、学習のまとめをする。</p>	2. 思・判・表 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫している。（教科書への書き込み・ワークシート・発表）	

7. 本時の目標

- 平調子の響きを生かして、「さくらさくら」のイメージに合う前奏・後奏を考え、愛着のもてる「さくらさくら」を完成させよう。

8. 本時の展開 (3/3)

	学習内容	●教師のかかわりと評価規準 ◇指導上の留意点	個別最適 協働的
導入 7分	OW-Up (5分) ・アルトリコーダーで既習曲を演奏する。(4~5曲) ・箏でさくらさくらを演奏する。 ○題材の目標と本時の課題の確認。	◇作曲をリコーダーでも演奏できるとよい旨を伝える。 ◇本時のおおまかな流れの説明。	個別最適
(目標) 平調子の響きを生かして、「さくらさくら」のイメージに合う前奏・後奏を考え、愛着のもてる「さくらさくら」を完成させよう。			
展開 23分	◆課題1 「さくらさくら」の前奏・後奏を考える。 ・グループで意見を出しながら考える。  ・役割分担をして前奏又は後奏のどちらかを考える。  ・決定したものをワークシートに記入する。	●思表判/主 (ワークシート・観察) ◇グループに合った創作活動ができるよう、個別最適な活動を支援する。(例：意見を出し合いながら創作する/互いに1作品を作ったあとに意見を出し合い修正するなど) ◇五線に書くことが難しい場合は、教師側でフォローする。	協働的 個別最適
	◆課題2 考えた作品をグループで練習する。 ・1人で演奏、複数で演奏など表現のしかたを工夫する。   ・考えた前奏、後奏をつけてスムーズに「さくらさくら」を演奏できるように練習する。	●思表判/主 (ワークシート・観察) ◇演奏が苦手な生徒には、全員が全てを演奏するのではなく、作品全体としてまとまりのあるものになるように工夫してもよい旨を伝える。 ◇メトロノームの活用も考えられる。(揃わない時など)	協働的 個別最適
	◆課題3 練習した作品を「さくらさくら」の前後につけて演奏を発表する。 ・発表前に工夫したことや、悩んだことなど、作品ができる過程で考えたことを発表する。 	●思表判/主 (ワークシート・観察) ◇自分たちの工夫について発表できるよう、課題1・2の時点でどのように協働的な学びを進めているか確認しながら支援しておく。	協働的
まとめ 20分	◆振り返り ・自分たちの作品や他のグループの作品を振り返り、学習のまとめをする。(自己評価・感想記入) ◆次時の連絡。	◇題材の目標についての自己評価 ◇本時の目標についての感想記入 ◇学校祭に向けた合唱練習	個別最適 協働的

この部分が、50分間の授業の中で出来ませんでした。

9. 評価

- 平調子の響きを生かして、「さくらさくら」のイメージに合う前奏と後奏となる旋律を思いや意図をもちながら創作し、工夫して表現していた。